

授業科目

行動医学

【担当教員名】 濱口豊太	対象学年	2	対象学科	理学
	開講時期	後期	必修・選択	選択
	単位数	1	時間数	15

<一般目標：G10>
 行動医学では、高次神経機能である心理発現と身体各臓器の狭義の行動発現についての基礎を理解し、脳と身体諸臓器が相互に関連する反応性によって環境適応する生体のメカニズムを中心に学習する。内因的あるいは外因的な行動発現とその継続性について、行動医学モデル（仮説）を参考にしながら、理学療法の治療的応用について学ぶ。
 人間の行動や作業活動を研究する医学分野を、国際的には行動医学（Behavioral Medicine）と呼ぶ。行動医学は健康と疾病に関する学際的研究領域である。その目的は、行動科学、医学、生物学、心理学などを発展・統合させ、疾病の予防、病院解明、診断、治療、機能回復を図ることにある。行動医学の近縁領域に、心身相関を追求する心身医学があり、理学療法もまた、心身機能を回復させる学問領域として存在する。

<行動目標：SBO>

- 1 認知・行動を支える神経系について理解することができる
- 2 体性知覚と内臓知覚の中樞神経を介した意識形成を理解することができる
- 3 心理神経機能が運動神経機能に作用することを理解することができる
- 4 ヒトの行動と免疫機能の反応性について整理する
- 5 ヒトの行動と遺伝子発現（モデル）について整理する
- 6 心理神経系機能を応用した運動療法を概略説明できる
- 7 理学療法と心身機能について討議することができる

回数	授業計画又は学習の主題	SBO	
		番号	学習方法・学習課題又は備考・担当教員
1	人間と行動発現のメカニズム	1	講義（濱口）
2	体性知覚と内臓感覚	2	講義（濱口）
3	運動と心理神経系	3	講義（濱口）
4	情動と生体防御機能	4	講義（濱口）
5	心理神経系と遺伝子多系（モデル）	5	講義（濱口）
6	理学療法と行動医学の展望	6・7	講義（濱口）

【使用図書】

<書名> <著者名> <発行所> <発行年・価格・その他>

教科書

特に指定しない

参考書

授業で紹介する

その他の資料

プリント

【評価方法】

出席、提出物、授業参加態度で総合評価

【履修上の留意点】